

| | |
|-------------|-------------|
| 群 教 セ | G01 - 04 |
| | 平 28. 261 集 |
| | 国語一高 |

文章を論理的に読解する力の向上

— 付箋で分類・整理し、要約する活動を通して —

特別研修員 真下 公和

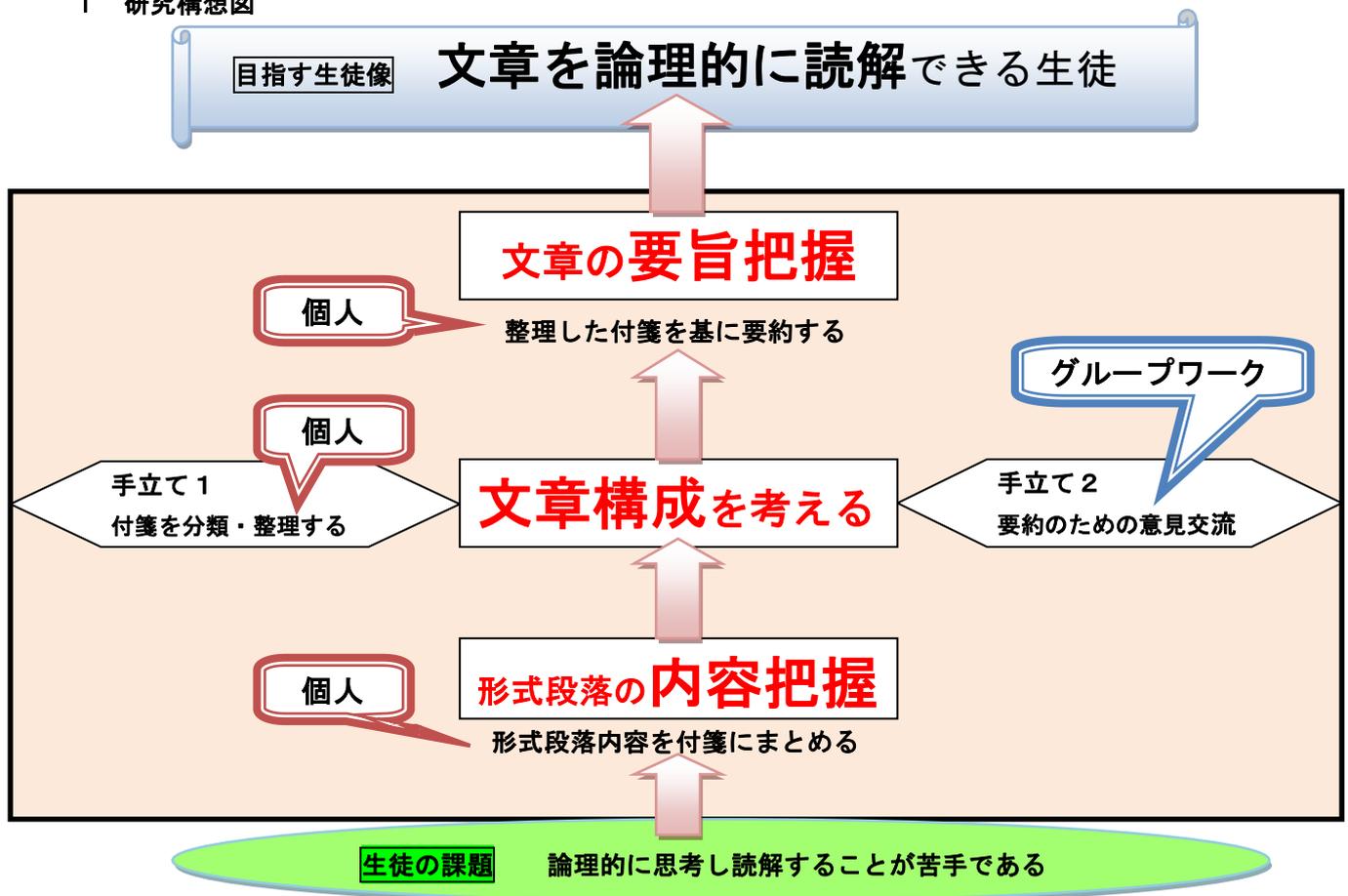
I 研究テーマ設定の理由

「平成28年度県立学校教育指導の重点」では国語科の指導の重点として「論理的に思考し表現する能力や互いの立場や考えを尊重して言葉で伝え合う能力」の育成が求められている。

本校の生徒は、評論読解の際に、形式段落や内容のまとまりを意識して論理的に考えることに慣れていない。また、結論を他の部分と関連付けて考えることが苦手である。実際の授業場面においても、生徒たちは要約するに当たり、どのような内容を入れて、どのようにまとめれば良いのか分からず、難しさを感じたようである。具体的には、形式段落ごとのつながりや文章全体を見通した要約はあまり見られず、文章末尾のみに焦点を当てたものや、具体例と筆者の主張の関係を踏まえて書けていない要約が多く見られる現状にある。生徒が文章を論理的に読解することができるようにするためには、形式段落ごとに内容をまとめることから始め、文章構成を意識しながら要約文をまとめる活動へと段階的に指導する必要があると考える。その中で、付箋を用いてまとめたものを並び替えたり、繰り返されるキーワードや筆者の主張へのつながりを可視化して論理構造を捉えやすくしたりすることで、論理的に文章を読解する力が伸長するものと考え、上記のテーマを設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

文章を論理的に読解する力の向上のために、付箋で分類・整理し、要約する活動をグループワークとして取り入れ、一人一人の要約力向上を目指す。

手立て1

形式段落ごとにまとめを記入した、複数枚の付箋を分類・整理することによって要旨を把握する。

手立て2

他の生徒との交流を通して要旨をより正確なものにする。

まず、個人で形式段落ごとに内容を短くまとめて付箋に記入する。記入した付箋をまとめシートに貼って整理する。整理したものを吟味することでキーワードや、筆者の主張となる部分に気付かせる。

次に、ペアになってまとめシートを使い、文章全体がどのような構成になっているのかを説明し合い、意見交換をする。自分のまとめ方を他の生徒と比較することで、より良いまとめ方を目指す。また、うまくまとめられなかった点や、自分の中で疑問に思った点などを話し合い、自らのまとめシートを見直して要旨を把握することによって、文章全体を俯瞰した完成度の高い要約を目指す。

III 研究のまとめ

1 成果

- 形式段落という短い範囲をまとめる活動であるため、国語に苦手意識を持っている生徒でも自分の力で、短時間に文としてまとめることができた。また、形式段落の中で重要な一文に着目し、必要な表現を補いながらまとめることができた。
- 付箋を用紙に貼って整理することで、文章構造を視覚的に把握することができた。繰り返し登場するキーワードにも気付くことができ、筆者の主張をより明確に理解できた生徒が多かった。
- 自分が整理した付箋を他の生徒と比較することで、自分の考えを説明する力や疑問に思った部分について交流を通して解決する力を養うことができた。
- 生徒のほとんどが苦手意識を持っていた文章の要約も、手順を追ってまとめることによって、文章全体を俯瞰した内容に書き上げることができた。

2 課題

- 付箋にまとめることで、キーワードを意識することができたが、付箋を並び替えて段落ごとの関係を考察する段階に至った生徒は少なかった。付箋を1段落から順に並べて、重要だと思われる箇所をチェックできてはいるが、移動できるという付箋のよさがまだ活かされていない。筆者の主張を考える際、具体例の部分や重複する内容をできるだけ削ぎ落とし、中でも重要な段落を選ぶことのできる力を養っていく必要がある。
- より長い文章になったとき、すべての形式段落をまとめて整理することは難しい。その時に、付箋にまとめるのに必要な段落とそうではない段落とを取捨選択し、重要な部分を見付けていく力をつけていくことが今後必要になると考える。
- 今回の授業実践では、本文の内容を読解した後で付箋にまとめるという活動を取り入れたため、どこが重要な段落であるのか、ある程度予測できたものと思われる。初見の段階でも筆者の主張を見極め、内容を把握できる力を付けていきたい。
- 授業全体を通して言えることだが、語彙力の向上が何よりも大切である。まとめや要約のみならず、初見の段階である程度の意味をつかむために、評論特有の熟語の知識を培っていく必要があると考える。言葉に敏感になることで、筆者の使う微妙なニュアンスの違いに気付き、要約や詳述の際にもより適切な言葉を用いて記述することができると考える。

実践例

1 単元（題材）名 いたずら—大人たちへの挑戦—（第1学年・2学期）

2 本単元（題材）について

本題材は、いたずらという行為を通して子どもたちが社会のルールを学びながら、自分たちのルールを作り出していくという過程を、具体例を交えて論じた文章である。「子どもは世界を二重化し、自分たちの世界を大人の世界に対置する」といった、やや難解な表現も使われているが、筆者の主張が繰り返し提示されているため、丁寧に読解を進めることで内容が理解できる題材である。表面的な要約とならないように、今回は形式段落ごとに筆者の主張を把握した上で形式段落ごとに付箋に内容をまとめ、最終的に要約をまとめる活動を通して論理的に文章を読解することをねらいとしている。

以上のような考えから、本題材では以下のような指導計画を構想し実践した。

| | | |
|--------------|--|--|
| 目標 | 文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約や詳述をしたりできるようにする。（読むこと） | |
| 評価 規 準 | 関心・意欲・態度 | ・発問に対して自ら考えようとしたり、自分の考えを他の生徒と相互比較しようとしたりしている。 |
| | 読む能力 | ・形式段落の内容を分類・整理して要旨を読み取ることができる。 |
| | 知識・理解 | ・問い掛けに対して内容を適切に読み取り、発言したり記述したりすることができる。 |
| 過程 | 時間 | 主な学習活動 |
| 課題 把握 | 第1時 | ・本文中の語句の意味を確認する。 ・接続詞を用いた短文作成をする。 |
| 課題 追究 | | 【1段落～5段落を読解する】 ・人間と動物が本文ではどのように対比されているのかを考える。 ・「いたずら」について、筆者はどのように定義しているのかを考える。 ・1～5段落の内容をそれぞれ付箋にまとめる。 |
| | 第2時 | 【6段落～12段落を読解する】 ・人間と「ルールの束」がどのような関係にあるのかを考える。 ・筆者は「自我」をどのようなものとして説明しているのかを考える。 ・6～12段落の内容をそれぞれ付箋にまとめる。 |
| | 第3時 | 【13段落～14段落を読解する】 ・「絶対だった大人のルールの世界をはじめ自分たちの仲間のルールで相対化する」とはどういうことかを考える。 ・「いたずら」を「世界のはじめの探検」と表現している理由を考える。 ・13～14段落の内容をそれぞれ付箋にまとめる。 ・記入した付箋をまとめシートに貼りながら、重要な点をまとめる。 ・席を離れて他の生徒と交流しながら自分の考えと相互比較する。 |
| まとめ | 第4時 | ・前時に付箋を貼ったまとめシートを基にして100～120字で要約を書く。 |

3 本時及び具体化した手立てについて

本時は全4時間計画の第3時に当たる。前時までには14段落中12段落までのまとめを付箋に記入しており、生徒は形式段落のまとめに対して、意欲的に取り組んでいた。一つ一つの段落が短いこともあり、筆者の主張をまとめやすいと感じたようである。本時はまとめた付箋を基にして、文章構成を意識しながら筆者の主張を読み取っていく。

手立て

- ・形式段落ごとにまとめを記入して付箋に書く。
- ・書いた付箋をまとめシートに貼り、要約のために付箋を分類・整理しながら内容を把握する。
- ・席を離れて他の生徒と交流する時間を設け、より良い要約の完成を目指して意見交換をする。
- ・自分のまとめシートを他の生徒と比較して、必要に応じて修正し、要約に活かす。

4 授業の実際

(1) 導入

まず、これまでに繰り返し本文中に登場した三つのキーワードである「いたずら」、「ルール」、「自我」を挙げさせ、内容を振り返らせた。次に、13段落を音読した後、この段落の重要部分である「それまで絶対だった大人のルールの世界を、はじめて自分たちの仲間のルールで相対化する」とはどのようなことかを考えさせた。生徒たちは説明に窮してしまっただけで、ポーランドのなぞなぞ「おじいさんとおばあさんを作ったのはだれでしょう」（出典『つい話したくなる世界のなぞなぞ』（のりたまみ著、文春新書）という問いを黒板に掲示した。生徒から正答が出るとともに教室が和んだところで、「絶対化」と対になる「相対化」の意味を踏まえつつ、説明を加えた。

次に14段落を音読したあと、「探検」と「探険」の表記の違いにも注目させながら、筆者が「いたずら」を「世界のはじめの探検」と表現している意図について考えさせた。その後、13段落と14段落の内容について、前時と同様に付箋で短くまとめる活動をさせた。大半の生徒がこの活動にも慣れ、速やかに付箋に記入することができた。

(2) 展開



図1 個人で段落ごとに付箋にまとめる活動



図2 要旨をまとめるための他の生徒との意見交換

次に、まとめシートを配付し、形式段落ごとに各自がまとめた付箋を貼って整理するように指示をした。そして、段落の内容を分類することが、要約をまとめる活動に活かされることを確認させた。これまでは、何を要約と考えるのか、どのような表現、語句に注目してまとめれば良いのか曖昧なまま生徒にまとめさせてしまったため、今回は細かな点まで伝達して、活動させた。生徒へ配付したまとめシートには、「『いたずら』とは何か」（定義）、「なぜ子どもたちはいたずらをするのか」（理由）、この2点を中心に、付箋を左に貼りながら重要だと思われる内容に線を引いたり書き込みをしたりしながらまとめましょう、と書いてあり、付箋を整理する上で留意すべき点を明示してある。多くの生徒は最初は形式段落順に付箋を並べ、重要と思われる部分に線を引いたり、書き込みをしたりしていた。そこで、付箋は並び替えて良いことを伝え、机間指導をしながら生徒の活動の様子を観察した。

生徒が概ね付箋の整理を終えたところで、席を移動してペアになり、自分のまとめシートを説明し合う時間を設けた。他の生徒との交流を通して、まとめる際に疑問に思った点を確認したり、

他の生徒のまとめ方を自分のものと比較してみたりするように投げ掛けた。「1段落ってトム・ソーヤの話だから、要約にはいらない」、「5段落と12段落はどちらもいたずらの定義のことだけど、同じ内容だから一つにまとめられる」、「『自我』と『ルールの束』と『感覚、感受性、美意識』の三つがイ

コールの関係なんだけど、どうやってまとめたらい？」といった活発な交流が、生徒同士でできていた。付箋やワークシートを通して一度自分の頭で考えてまとめているため、不明な点をはっきり意識した上で他の生徒との有意義な交流に活かされたのではないと思われる。

その後、自分の席に戻って交流を踏まえてまとめシートを訂正、加筆するように指示をした。繰り返して使われている言葉や内容に注目すること、具体例よりも筆者の意見を取り上げること、といった助言を行いながら、活動の早い生徒には要約の下書きを始めるよう伝えた。

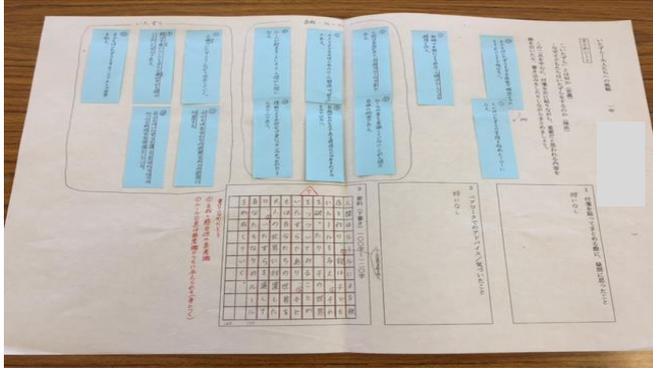


図3 生徒のまとめシート（全体図）

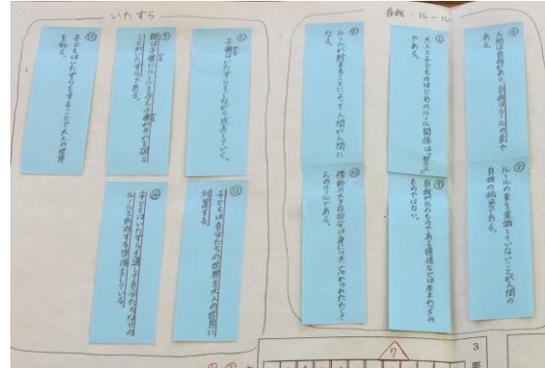


図4 生徒のまとめシート（図3の左上部分の拡大図）

(3) まとめ

最後に、次回の授業では本時にまとめたシートをもとに 100字～ 120字で要約を完成させることを伝えた。本時は内容読解と付箋でまとめる活動のほか、文章全体を俯瞰してまとめるという活動もあったため、生徒にとって充実した時間となった。

5 考察

今回の授業実践では、段落ごとに整理することで、文章構造に着目した論理的な読解ができた。文章が短いといっても高校1年生にとって評論は難しいというイメージがあり、何に注目しながら読解を進めるのか、最初は教員側が導くことの重要性に気付かされた。最終的には個人の読解力の向上が目標であるが、他の生徒との交流によって伝え合うこと、気付くことの意義も今回の授業実践によって確認できた。今回の授業の反省点をもとに、より精度を高めた授業に取り組みたい。

付箋を使った活動は生徒にとって新鮮であったようで、どの生徒も自分なりに知恵を絞って真剣に取り組む姿が見られた。付箋にした意図は、並び替えることで同内容の段落をまとめたり、具体例と主張の部分を確認したりすることであったのだが、実際の授業では大半の生徒が1段落から順に付箋を並べて、矢印や書き込みによって整理していた。だとすれば、付箋を使わずとも用紙に罫線を引き、そこに段落ごとのまとめを書き込んでも同じではないかという疑問が浮かぶ。しかし、付箋にした意図を考えれば、多くの段落の中で重要な部分を視覚的に並び替えて整理できるという付箋の利点を読解に活かすことは大変意義があり、最終的に付箋の枚数を減らしたり、頭の中で整理したりして、筆者の主張にたどりつく力を養えるのではないかと考える。また、今回は付箋を使つての活動が初めてであったこともあり、まとめシートへの貼り方が一様であった。横一列だけではなく、縦に貼ったり、より自由に並べたりできるようにすると理解した論理構造を生徒自身が工夫して紙面に表現できるより良い活動になるのではないかとと思われる。

総括すれば、付箋による要約活動は文章を論理的に読解するという点で効果的な授業実践であったと思われる。学力差があり、ペアワークが十分にできなかった生徒もいるが、まずは自分の中で答えを出し、文章の構造を理解しながら、理由とともに筆者の主張を読み取っていく活動が個人で体験できた。今後は、要約に書くべき内容を生徒自身に考えさせたり、付箋の枚数を少なくして段落内容の軽重を判断させたりして、論理的に文章を読解する力の向上を図りたい。単調になりがちな現代文の授業も、今回のように様々な活動を通して、生徒が自主的に文章に向き合い、自ら考え、他者との交流を通して学びながら力をつける形にしたい。

6 資料（まとめシート）

いたずらー大人たちへの挑戦 一年組番（
まとめシート

- ・「いたずら」とは何か（定義）
- ・なぜ子どもたちはいたずらをするのか（理由）

この二点を中心に、付箋を左に貼りながら、重要だと思われる内容を線を引いたり、書き込みをしたりしながらまとめましょう。

【付箋を貼る位置】

形式段落ごとに内容を
まとめた付箋を貼ってい
く。

付箋の順序は自由に変
えてよい。

1 付箋を貼ってまとめる際に、疑問に思ったこと

ペアワークで聞きたい
ことをメモしておく。

2 ペアワークでのアドバイス／気づいたこと

自分の疑問に対して、他の生徒との
交流によって明らかになったことを
書く。

他の生徒のまとめ方、付箋の貼
り方で気づいたことを書く。

3 要約（下書き） 一〇〇字～二〇〇字

整理した付箋をもとに要
約の下書きを書き込む。

キーワードや
定義、理由を盛り
込んで書く。